



中央地区社会教育情報誌「つなぐ」No.55号をお届けします。

前回の54号から、県教育庁生涯学習課の中央地区における取組と中央地区9市町村が今年度重点事項として取り組んだ事業等について紹介しております。今回の55号では、県教育庁生涯学習課・にかほ市・井川町・五城目町の取組を紹介します。

生涯学習課

ビブリオバトル 2024 in AKITA

発表者が5分間でお気に入りの本の魅力を紹介し、聴衆が読みたくなった本（チャンプ本）を投票で決める知的書評ゲーム、ビブリオバトル。

10、11月は県内各地（北鹿、能代、秋田、由利本荘、大仙、横手、湯沢）でビブリオバトル地区大会が行われました。中央地区においても、由利本荘大会が10月6日（日）に文化交流館カダーレで、秋田大会が19日（土）にふれあーるAKITAで開催されました。

今年度は、各地区大会に中学生45名、高校生34名が出場するとともに、多くの聴衆の皆さんに参集いただき、熱いバトルが繰り広げられました。年々発表のレベルが上がっていて、投票泣かせの状況が感じられました。

11月30日（土）には各地区大会を勝ち上がったバトルー、中学生7名、高校生7名が集結し、「ビブリオバトル 2024 in AKITA」が秋田拠点センターアルヴェきらめき広場を会場に開催されました。各自が選んだ本にかける熱い思いを身振り手振りを交えながら発表し、聴衆を引き付けていました。

そして、今年度のチャンプ本は、中学生、高校生の部のどちらも「死んだ山田と教室」に決定しました。



にかほ市

「第40回奥の細道象潟全国俳句大会」

「象潟や雨に西施がねぶの花」「汐越や鶴はぎぬれて海涼し」の2句は、俳人松尾芭蕉の「おくのほそ道」で訪れた最北の地「象潟」で詠んだ句です。本大会は旧象潟町が昭和40年に観光誘客促進の一翼を担う全県俳句大会からスタートし、第20回目には全国大会に改め、今年で40回目を数える伝統ある大会です。

40回目の節目を記念して、大会前に象潟の芭蕉ゆかりの地を巡っての吟行句会を開催しました。

8月の猛暑の中での開催でしたが、今大会の選者岸本尚毅さん（秋田魁新報社「俳句レッスン」連載）を交え、参加された県内外28人が九十九島や蛸満寺で句を思案していました。

今年の投句数は、全国が対象の一般の部に377句、市内小学5、6年と中学生による子ども部に707句の応募が



ありました。入賞を目指して毎年投句されている方、始めたばかりの方、小中学生と老若男女関係なく「俳句」に親しむ場となっています。

おくのほそ道最北の地「象潟」が持つ唯一の価値を歴史的遺産の一つとしてさらに磨き上げ、県内唯一の芭蕉ゆかりの地である誇りをもって伝統を継承し、同時に「俳句」の魅力を発信する大会として今後も継続していきたいと考えています。

井川町

「いかわりサイクル BOOK フェア」

公民館図書室や学校図書室の除籍本をリサイクル本として無料で譲渡する「いかわりサイクル BOOK フェア」を11月16日（土）に井川義務教育学校の学習発表会に併せて開催しました。

本事業は、町民の読書推進や図書室や読書に係るボランティアを養成することをねらいとし、令和5年度にスタートしました。地域学校協働活動推進員と町民図書ボランティアが中心となり、展示する本の選書から当日の運営まで行っています。

今年度は選書された一般図書、児童用図書、絵本、雑誌など合計370冊ほどを展示し、学校へ訪れた様々な年代の方々が自由に本を選び、持ち帰っていました。「読みたい本が見つかってよかった」と話したり、「ちょっとこの本読んでみようかな」と普段あまり本を読まない方も持ち帰っていたりして、本に触れるよい機会になったように感じられました。

また、事業に協力してくださる推進員やボランティアの方々が積極的に関わってくださるおかげで、準備から当日の運営まで非常にスムーズに事業を遂行することができました。

今後も町の読書推進事業を町民と一緒に頑張って取り組んでいければと思います。



五城目町

「矢田津世子没後 80 年事業」

五城目町出身の女流作家の矢田津世子は、モダン派から純文学へ転身し、1936年作の「神楽坂」は第3回芥川賞候補にも選ばれました。以後、享年36歳と短い生涯の中で、他にも「茶粥の記」「鴻ノ巣女房」など、数々の作品を発表しております。

今年度、矢田津世子没後80年を記念し、様々な事業が開催されました。矢田文学の周知を図り、地域文学の向上と生涯学習の推進を目的として開催された「ふるさと作文コンクール」では、町内小中学校の児童生徒から、五城目町に関連する内容の作文を募集しました。審査委員による厳正な審査の結果、最優秀賞2名・優秀賞6名が、ふるさと作文コンクール表彰式にて表彰されました。同日に、秋田公立美術大学の石山友美准教授が監督を務めた短編映画が上映され、来場者は矢田津世子の世界観に触れました。

また、五城館にて「あきた文学資料館」と共催し「矢田津世子特別展」が開催されました。矢田津世子未発表小説「みぞれ」を含む、自筆原稿や書簡等約50点余りが展示され、期間中は300人を超える来館者がありました。

年度内には「みぞれ」を含めた矢田津世子未発表作品集も出版予定としております。今後とも、矢田津世子が残してきた作品や想いを発信していき、周知し続けていきたいと考えております。

